



春爛漫。

報徳会
ホームはなさか



施設外周の枝垂れ桜をはじめソメイヨシノや薄墨桜などの桜のほかにも様々な花が、春のはなさかを飾ってくれます。今後も花咲く「はなさか」をお楽しみに。

はなさかさかす

社会福祉法人報徳会
広報紙（季刊）
はなさかさかす
令和4年春号

はなさかの校は平成24年の開所から今年も変わらず満開を迎える事が出来ました。はなさかが勝坂の地で十年間の活動を続けてこられたのは、地域の皆様をはじめ、ご利用者様、ご家族や関係者の方々の支えのおかげと、深く感謝を致しております。

コロナ禍という未曾有の事態のなか入所施設へのウィルス侵入を食い止め、世界情勢の大きな変動に際し、食料やインフラの自立など様々なトライを重ねて、理想の介護を目指して参ります。今後ともご支援、ご指導を賜りたくお願い申し上げます。

「積小為大」が生きてつながるへふえせかい

社会福祉法人報徳会理事 岩壁 清吉



旅の途次、「はなさか家族」の祖、尊徳翁と出会う。目からうろこ。仙台へ向かう新幹線車中、JR小冊子『トランヴェール』（2022年2月号）、「下野国で見せた二宮金次郎の才覚」と題する高橋盛男氏の達意の聴聞紀行文に魅せられる。時を超えたへふえせかいの実践例。

《「報徳思想」には「積小為大」という言葉がある。「小さなことの積み重ねが、大きな成果につながる」という意味だ。金次郎はこの「徳」を道徳というより、長所や特質という意味で用いた。万物には固有の長所を生かして他との調和を、自然との調和、金銭の貸借にまで無理をかけない手法を求めた。人の営みを永続させる根本は、あらゆるものの調和だという考え方だ》と解説。この処方箋こそ「まさに今日のSDGs持続可能な開発目標です」と説く歴史学者磯田道史教授の言葉が、尊徳翁の〈心田開発〉の声となって「はなさか家族」にも届く。毎年、私もいただくへふえせかいカレンダーには福住正兄が編纂した『二宮翁夜話』から十二編、月めくりの箴言が掲げられている。

内田善久・柚本敦子兄妹の高祖父福住正兄は「人の病を治す医師を越えた」国の病を治す医師になるべし。二宮先生の教えを請うのが良いとの父の勧めに従い、二二歳の時、尊徳翁の門下生となる。下野国東郷陣屋（現在の栃木県真岡市）で遂行され「校町仕法」（勤労・至誠・分度・推譲等の施策）と謳われた地方再生の業務に随行。身の回りの世話を焼く。その際、尊徳から放たれる日々の教えを書き留め、まとめ挙げたものがはなさか家族に脈々と受け継がれる。輪廻、ロンド。

本年四月のカレンダー。曰く『小を積んで大を成す』（巻一六）《声もなく香もなく常に天地は書かざる経を繰り返しつゝ、尊徳》正兄が述べる『二宮翁道歌』のこの歌。「書かざる経」のまま真実を残し「あめつち」（全世界）は歳月を繰り返してゆくのだと教ええられる。

特別寄稿 リレーコラム

法人理事・評議員の方々にリレー形式でコラムをご寄稿頂きます。

山口淑子さんのこと

社会福祉法人報徳会理事 前田 健太郎



「平和っていうのはね、水や空気と同じようにどこにでもあるものではないのよ。時には血を流しても掴み取るものなの」

私が二十代の多くの年月を秘書としてお仕えた当時の参議院議員・山口淑子さんはよくそんなことを言っていたのをとても印象的に覚えています。

山口さんは李香蘭の名前で、満映理事長甘粕正彦、東洋のマタハリ川島芳子ら艦艇艦艇が跋扈する動乱の中国満洲を舞台に活躍した女優であり、戦後はTV番組のキャスターとしてパレスチナで日本赤軍・重信房子の取材等を行ってきた人でした。その言葉の重み、真実に未熟であった私は気づいていなかったのかも知れません。

振り返って今、ウクライナではまさに人々が、血を流して平和を掴もうとしている訳です。

戦後に生まれ高度成長と言われる時代に育った私たちにとって平和とは豊かさやセットで、空気のように存在するものでした。山口さんの言葉は、そんな私たち戦争を知らない世代へ、そして日本への温かな警句であったのでしょうか。

さて、はなさかには千年桜というものがあり、千年の命を次の世代に引き継いでいるそうです。山口さんのように戦争の時代を経験された多くの日本人の平和への想いが、次の世代にも引き継がれればよいと、そんなことを思いました。

ウクライナ情勢に思う

社会福祉法人報徳会評議員 守屋 篤



冷戦後の世界において、おそらく最大級の殺戮が日々行われているのは、皆さんもテレビ等の情報で、ご承知のことと思います。日本から約8000キロ離れた地域での戦乱が、今そして近い将来、我々の日々の生活に何をもたらすのか。戦乱による人・物の移動制限、西側諸国を中心とした経済制裁など、現地・現物を確認したものではありませんが、推察の範疇で考えてみたいと思います。

まずは食料では小麦が中近東の国々を中心にすでに極端な供給不足が発生しています。エネルギーでは欧州諸国が天然ガスから他の手段への転換を模索しているものと思われれます。また希少金属の供給の滞りや、自動車や電化製品の製造に欠かせない部品はコロナ渦に加え更なる停滞が想像されます。そしてこれらの経済活動等を円滑に機能させていた金融システムにも変化が生じるかもしれません。

これらの状況を鑑みれば、いつの時点基準とするか難しいところですが、仮にコロナ渦以前の生活水準を基準とすれば、ものの豊富さや価格の安定性などを踏まえ、日々の生活の満足感や充実感を取り戻すにはそれなりの時間が必要になると思われれます。この時間を短縮し、ウクライナや周辺の諸国を含む戦乱の被害者の日常を取り戻すためにも早期の収束を願うばかりです。最後に、私しごとで恐縮ですが蟹やウニを腹いっぱい食べるのを想像しながら、僅かな期待をかけて北方領土が帰ってくる夢でも見たいと思います。



石仏ガーデン OPEN

中庭に古い石仏を五体置きました。千手観音や地藏菩薩など、戦国時代から江戸時代の作で歴史ある作品です。コロナや戦争など殺伐とした時代のなかで、人々の祈りを受けてきた石仏にはなさかの平穏を祈ります。

スタッフ紹介

報徳会奨学金留学生のメヌカさん(右)とティカさん(左)。ネパールから来日して4年目介護専門学校で介護福祉士を目指して勉強中です。



お花見撮影会



はなさか桜の前で、毎年恒例のお花見撮影会。久しぶりの外の空気に、皆さんにも笑顔の花が咲きました。



ジャガイモと里芋、生姜を植付けました。ジャガイモは男爵系とメークインの仲間の2品種。来月はさつま芋の植付けです。

はなさか農園

2022